

2013 年度 小委員会活動成果報告

(2014 年 2 月 7 日作成)

小委員会名	集合住宅の遮音性能評価水準検討小委員会	主 査 名：岩本毅 就任年月：2013 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (音環境運営委員会)	委員長名：田辺 新一 主 査 名：岡野利行
設 置 期 間	2013 年 4 月 ～ 2015 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・建物内で発生する外部騒音レベル（床衝撃音，空気伝搬音，共用設備からの固体伝搬音など）を加味した最適な遮音性能水準を検討，提案 ・2013 年度：最近の集合住宅における室内発生音レベルの調査と S50 年初期における建物の発生騒音の比較 	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無	
	主査：岩本毅（三井住友建設） 幹事：小林秀彰（三井住友建設） 委員：濱田幸雄（日本大学），羽染武則（東急建設），田端淳（大成建設），古賀貴士（鹿島建設），大脇雅直（熊谷組）坂口紳一（東海興業），山下恭弘（信州大学），坪井政義（大林組），藤本一壽（九州大学），大内孝子（東京都市大学）	
設置 WG (WG 名：目的)		
2013 年度予算	70,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： http://www.aij.or.jp/gakujutsushinko/f-a00/fb00-12/fb20-12.html

項 目	自己評価
委員会開催数	6 回（年度内計画を含む）
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 最近の集合住宅における室内発生音レベルの調査を実施した 2. 昭和 50 年代初期に実施された総プロ「住宅性能総合評価システムの開発研究」の結果と 1. の結果を比較し現行遮音水準の検討を行った
委員会活動の問題点 ・課題	無し

*小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

*表中の「(書名)」等の赤文字は、記述を誘導するための説明である。記載の有無にかかわらず最終的には削除のうえ提出すること。

- * 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。
- * 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学委員会用 自己評価欄

20 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価・最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>本小委員会は集合住宅の床衝撃音、室間遮音および交通騒音等の外部発生騒音と建物内発生騒音に対する居室における発生騒音（以下室内騒音）に関して、遮音性能評価水準を検討、提案し、実務で生じる苦情等の是非に対する判断基準の目安として活用できるようにすることを目的としている。</p> <p>本年度は前年に引き続き委員から最近の集合住宅における室内騒音レベルのデータを提供していただき、昭和 50 年代の室内発生音との比較を行った。同時に建築学会大会においてオーガナイズドセッション「集合住宅における遮音性能の現状把握と今後の展望」を開催し、当小委員会からもこの結果について報告を行った。</p> <p>また、睡眠影響、会話妨害といった生理的な観点から WHO のガイドラインを調査し、最適な騒音レベルを検討した。実際には WHO ガイドラインをそのまま適用するのでは、交通騒音が大きい都市部では設計できない、また、静か過ぎると他住戸からの音が明瞭に聞こえるようになるなど建築的な問題が大きくなるのである程度の工学的な判断が必要であることがわかった。次年度はこれらの結果を元に室内騒音レベルや遮音水準を検討する予定である</p>

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。